

プレスリリース用Q&A

1. 財団法人横浜開港150周年協会とはどんな団体か？

横浜が開港150周年を迎える2009年（平成21年）には、様々な記念事業が実施されるが、開港150周年記念事業は、市民・企業・行政の三者が力を合わせて実施する。

この記念事業のうち、“横浜開港150周年記念テーマイベント「開国・開港Y150」”の実施主体が財団法人横浜開港150周年協会である。

2. 150周年でどんなテーマイベントがあるのか？

日本の開国、横浜の開港からの150年を見つめなおし、これからの150年に向けて、イベントに関わるそれぞれが、個性を輝かせながら参加・協働・創発する。

事業名称

横浜開港150周年記念テーマイベント「開国・開港Y150」

会期等（予定）

- ・ ベイサイドエリア（みなとみらい21新港地区）
2009年4月28日（火）～9月27日（日）
- ・ ヒルサイドエリア（ズーラシア未整備地区）
2009年7月4日（土）～9月27日（日）

3. キャラクターデザインはどのように選出したのか？

一般公募した520点の中から決定した。

4. キャラクターの著作権はどこが持つのか？

（財）横浜開港150周年協会に帰属。

5. 今回の契約スキームは？また期間は？

協会が伊藤忠商事にライセンスを供与し、伊藤忠商事がライセンスを使用する。伊藤忠商事が、ライセンスをさらに第三者（サブライセンシー）に供与し、サブライセンシーがライセンスを使用する。

2008年3月～2010年3月末日までの予定。

6. 横浜開港150周年マスターライセンスオフィスはいつから、どこにできるのか？

伊藤忠の人員体制は？

現在協会と協議中。横浜開港150周年協会内と伊藤忠商事東京本社内に設置する。人員については現在5名程度で立ち上げ開幕に向けて増員していく予定。

7. サブライセンシーの審査基準は何かあるのか？

基本的に申請はすべて受付ける。その上でマークおよびキャラクターの使用ルールを守って頂ける先に許可する。

8. キャラクターの愛称はどうやって決まったのか？

公募により全国から集まった4906点の作品の中から決定した。

9. サブライセンシーは何社くらい？

できるだけ多くのサブライセンシーを募りたい。4月下旬には説明会を開催する予定。

10. 商品計画はどのようなものか？

テーマイベントのテーマに合致した、そしてイベントに来て頂いたお客様の思い出になるような商品を展開していく計画。マスコットキャラクターの「たねまる」を付したファンシー雑貨からステイショナリー、お菓子、衣料など予定している。またファッショナブルな横浜をイメージするような商品も計画している。

11. 今回もアニメや絵本などこのキャラクターにストーリー性を持たせるような仕組みは考えているか？

キャラクターに息吹を与えるには必要なことであると考え。従い現在検討中。

12. 販路は？

横浜近郊の百貨店、スーパー、コンビニエンスストアをはじめ、キオスクなど利便性のあるところへも販売していく予定。ネット販売も計画している。

13. 直営店などは予定されているか？

地元百貨店などをお願いして直営店も展開していきたい。また、テーマイベント期間中には、会場内の公式売店も予定している。

14. リリースにある「地元企業とも協調しながら地域産業の活性化に貢献」とあるが具体的にはどのようなイメージか？

販売での協力やサブライセンシーとしての協力だけでなく、このイベントを盛り上げるための協力については、幅広く検討していく。

15. 売上はどの程度を目指しているか？

イベント期間中の会場内の商品販売で25億円程度を計画している。

16. 愛・地球博では伊藤忠はどんな効果をあげたのか？

ライセンス供与先 270社

売上 会期中のモリゾーキッコロ商品：会場内 193億円

マーク、キャラクターを付した商品の販売総額(会期前も含む)：約1000億円
35年ぶりに名古屋で開催された国家事業に多大な貢献ができた。

17. AMLOの現在の役割は？

2005年日本国際博覧会協会から地球産業文化研究所が事業を引き継いでおり、愛・地球博の基本理念=自然の叡智の継承・発展という継承・発展事業を進めている。AMLOも会期中と同様、マスターライセンスオフィスとしての事業を継続して、理念継承・発展事業に貢献している。

業務内容 キャラクター・マーク使用申請受付・承認業務

着ぐるみ使用申請受付・承認業務

モリゾー・キッコロ商品の開発支援

同 販売支援 など